

Shiga, N. (1993a; 1993b)

First record of the appendicularian, *Oikopleura vanhoeffeni*
in the northern Bering Sea. *Bull. Plankton Soc. Japan* **39**: 107-115.

Regional and vertical distributions of *Oikopleura vanhoeffeni*
on the northern Bering Sea shelf in summer. *Bull. Plankton Soc. Japan* **39**: 117-126.

ベーリング海北部域における尾虫類 *Oikopleura vanhoeffeni* の初記録
夏季ベーリング海北部陸棚域における *Oikopleura vanhoeffeni* の地理および鉛直分布

尾虫類の *Oikopleura vanhoeffeni* は大型なオタマボヤ科の種で、北極海の表層に分布することが知られているが、これまでベーリング海での出現や生態の報告はなかった。これは、当海域での研究が少なかったことや、近縁種の *O. labradoriensis* との誤同定が可能性として考えられる。本研究はベーリング海における *O. vanhoeffeni* の出現を初報告し、その形態を記載したものである。また、地理分布と鉛直分布、個体群構造について明らかにし、水塊との対比を行った。

1983年7月27日～8月3日および1986年7月2日～8月4日にかけて、ベーリング海北部陸棚域の13定点(1983年)と58定点(1986年)において、濾水計を装着した目合い0.35 mmのNORPACネットによる鉛直曳き採集を行った。1986年には5定点にて、目合い0.10 mmの閉鎖型NORPACネットによる密度躍層の上下で分けた、鉛直区分採集を行った。試料は10%中性ホルマリン海水で固定した。採集と同時に転倒温度計とサーモサリノメーター(1983年)もしくはCTD(1986年)にて、水温と塩分を測定した。また、1986年には蛍光法によるクロロフィル *a* も測定した。試料中から尾虫類をソートし、種および発育段階を5段階に分けて同定・計数し、各部位の形態測定を行った。

形態的に *O. vanhoeffeni* の成体(Stage V)の胃は、既報の北大西洋では円形であるが、ベーリング海では胃の左部分がハート形をしており、そのサイズも小型であった。ベーリング海において *O. vanhoeffeni* はセントローレンス島の北東部から東部海域に主に分布し、最大密度は762 ind. m⁻³であった。一方、セントローレンス島北部海域での出現は見られなかった。本種の分布は地理的に水塊とよく対応しており、主に Bering Shelf Water に分布していた。個体群構造についてみると、セントローレンス島の東部と北東部海域には尾部長2-4 mmの幼体(Stage I-II)が卓越していたが、セントローレンス島南部海域では幼体と尾部長14 mm以上の成体(Stage V)が共存していた。鉛直的に幼体は躍層で浅に、成体は躍層で深に分布していた。これらの事から、*O. vanhoeffeni* は産卵をセントローレンス島南部海域にて行っており、幼体は Bering Shelf Water と Alaskan Coastal Water の間のフロントに沿って、ベーリング海峡の北部に輸送されていると考えられる。

前角地毯衣

今回のゼミ(5月25日(水)13:30～, N204にて)は、松本さん、赤穂さんの予定です。